

平成26年度 佐賀学園高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標

校訓である「創造」「躍動」「貢献」を具現化するために、生徒一人ひとりが相互並びに教職員としての信頼を基にした人間関係を構築し、知性を磨き、個性豊かで、志高く、建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」を目指す。

2 学校経営ビジョン

- ① 県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ② 基本的学習習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③ 生徒一人ひとりの学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④ 部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

- 2万人を超える卒業生によって築かれた伝統を継承し、更なる学校の活性化に向けて全職員が一丸となり、「人は人により人となる ～根気、やる気、元気で素直に学べ～」のスローガンのもと、次の7点を重点目標に掲げ、生徒の「人づくり」のために邁進する。
- ① 基本的学習習慣を定着させ、生徒との面談、授業・部活動・学校行事を通して生徒の内面への指導を充実させ、遅刻・欠席・問題行動・転退学者の減少を図る。
 - ② 基礎学力の定着と授業の充実および基本的学習習慣の定着により学校生活の充実を図らせる。また、学力向上により進路実現100%を目指す。
 - ③ クラス目標を掲げ、目標達成に向けて教職員の協力体制を構築する。
 - ④ 入学させた生徒全員を卒業させることを目標にきめ細かな指導を行なう。
 - ⑤ 教室をはじめ校内の美化、教育環境の整備に努める。
 - ⑥ 部活動の加入率を向上させ、各種大会で上位を目指す。
 - ⑦ すべての教職員が具体的な数値目標を内容とした自己目標を掲げ、管理職との面談を行い目標達成に向けて努力する。

4 前年度の成果と課題

進路保障では就職内定者の数は粘り強い指導で前年度より良い結果であったが、進学は国公立合格者が5名にとどまり目標に届かなかった。学園祭の成功など生徒会の活動は活発化した。学力の面では基礎学力の定着および家庭学習の習慣化はまだ未だである。転退学者や欠席・遅刻の数はほぼ前年度と同じで指導の面で課題を残した。この課題の解決のためには生徒の心に響く指導力の向上が望まれる。

5 総括表

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 (具体的な評価項目) | 具体的目標 | 具体的方策 |
|------|---------------------|---|--|---|
| 学校運営 | 学校経営方針 | ・本年度の重点目標を生徒・保護者に周知させることができたか。 ・重点目標に取り組みその成果があったか。 | ・重点目標を知っている保護者の割合を80%以上にすること。 ・重点目標の取り組みについて、生徒・保護者が「非常に良い」「良い」の評価を80%以上にすること。 | ・職員へは職員会議、生徒へは全校集会で、保護者へはホームページ、広報誌、振興会総会などで周知する。 ・職員との面談で重点目標の進捗状況を確認し、アドバイスを与える。 |
| | 生徒募集 (広報活動) | ・中学生のニーズに合った進路情報をタイムリーに提供できたか。 ・全校あげて、教職員が生徒募集に協力できたか。 | ・オープンスクールの内容の検討やホームページの活用と広報資料・方法を見直す。 ・「出前講座」や「過去問」教材を提供する。 ・教職員の意識を高める決起集会を実施する。 | ・広報活動としてのTV等のメディアの利用検討、ホームページの定期的な更新により情報発信を積極的に行なう。 ・1、2学期の景風会開催時に実施する。 |
| | 学校事務 | 生徒・職員の安心のための校舎の耐震化に着手する。 | 具体的な耐震工事のスケジュールの立案と施工する。 | IS値に基づき個別校舎の補強建て替えの決定、設計、施工を行なう。 |
| | 職員の指導力向上 | ・社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が濃く、わかりやすい授業ができたか。 | ・教育センターの講座、特に不登校・引きこもりにいじめ問題・発達障害等の専門研修、教育相談の研修等を3年間で1回以上は受講する。 ・生徒が充実感を味わえるような授業を展開し、授業改善アンケートの評価を参考に研鑽に努める。 | ・職員研修会を各校務分掌で企画する。教育センターの研修講座に15名以上参加する。 ・各教科での授業研究会を開催する。 ・職員相互の授業参観を活性化し、授業の質を向上させる。 |
| 教育活動 | 学力向上 | ・基礎学力の向上が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。 | ・基礎学力の向上を図る。 ・進学、就職に対応できる学力の定着を目指す。 | ・マナトレを有効に活用する。 ・家庭学習を充実させる。 ・教師間で共通認識を図り、目標、指導、評価が一体となった授業に取り組む。 |
| | 進路指導 | ・発達段階における進路意識が芽生えたか。 ・キャリア教育を生かした将来像が具現化しているか。 ・希望進路の進路保障につながったか。 | ・進路指導講話や、外部教育力を生かした進路意識の向上を図る。 ・成績高等部を牽引力とした国公立大学合格者数10名を目指す。 ・就職内定率100%を達成する。 ・月に1回の進路指導に関する情報の共有化を図る。 | ・進路調査、進路ガイダンスなどで個人の適性・能力を客観的データにより理解させる。 ・基礎力診断テストなどのデータを用いミスマッチのない進路指導を行なう。 ・個々人のデータをFINE SYSTEMの利用により活性化させる。 ・面接、小論文指導を国語科の協力を得て充実させる。 ・新規企業開拓、企業訪問を強化する。 |
| | 生徒指導 | ・服装が正しく着こなされたか。 ・マナーの向上が図られたか。 ・交通安全の意識が向上したか。 | ・ネクタイの緩み、シャツだし、女子のスカート曲げを減らす。 ・JR利用者のマナー向上を図る。 ・自転車利用者のマナー向上を図る。 | ・校内、校外での服装指導や服装指導のための集会を実施し、マナーの向上を徹底する。 ・自転車利用者には施設の徹底とカッター利用を促す。 |
| | 環境美化 | ・教室の学習環境が整備されているか。 ・自主的に清掃活動が行なわれているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 | ・清掃のいきとどいた状態にする。 ・自主的に清掃活動を行なう意識を高める。 | ・校内美化環境を整える。 ・ゴミの分別を徹底し、軽量化に取り組み、グローバルなエコの意識を高める。 |
| | 課外活動 | 仲間と相互に切磋琢磨し友情や社会性、自己表現力や強い精神力を磨けたか。 | ・加入率70%を目標に、担任、顧問との連絡を密にし、各クラブの部員数を増やすとともに中退退部者をなくす。 ・各種大会で優勝を目指し、上位進出を果たす。 | ・クラブ紹介や勧誘方法を工夫する。 ・文武のバランスを考え部活動の質を高める工夫を図る。 |
| 特定課題 | 長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応 | 担任、学年主任、管理職、教育相談担当者、スクールカウンセラーのチーム体制で生徒・保護者に充分な対応ができたか。 | ・教育相談室に登校できることをステップとし、学校に近づけ教育相談室や教室に入れるよう努力させる。 ・学習指導の充実により生徒に自信をつけさせる。 | ・スクールカウンセラーや担任、学年主任、管理職と連携し本人に働きかける。 ・面談・家庭訪問などを継続して行い、生徒・保護者との繋がりを絶やさないようにする。 |
| | 礼法教育 | 礼法を通じて心豊かな社会生活上の規範を身につけたか。 | 豊かな人間関係を築くために必要なマナーを実践し、役割と責任を自覚させ、集団生活の向上に努める。 | 良好な人間関係を構築するための礼法教育の研究と指導法の充実を図る。 |
| | 生徒会活動 | 校内の問題を自分たちで考え主体的に行動できたか。 | 学級活動や委員会活動を活発に行い、学園祭を充実したものとする。 | ボトムアップ機能をより充実したものとし、関係分掌、学年、学級との連携を密にする。 |
| | キャリア教育・マナトレ | ・マナトレを通じて基礎学力を向上させることができたか。 ・キャリアアートの活用で就職を身につけることができたか。 | ・マナトレ認定テストの基礎編、標準編を全員クリアさせる。 ・基礎学力テストでのGTZをD1からC以上のレベルにする。 ・3年間を見通したキャリア教育を浸透させる。 | ・マナトレ終了テストの結果を分析してレベルアップを図る。 ・分析結果を共有する。 ・キャリアノート・インターンシップを進路保障にリンクさせる。 |